

図書案内

2018年 11月号

担当 1-2H 渡部 1-5H 林



映画化された本



最近は多くの本が映画化され話題となっています。今回は担当者がオススメする4冊を紹介します。読書の秋ですが、本を読むことに加えて、映画を楽しんでみるのはどうでしょうか？本と映画の両方に触れることで、作品を2倍楽しむことができるでしょう。きっと新しい出会いが待っているはずです。

図書館で貸出しています(貸出中の場合、予約できます)



『図書館戦争』 有川 浩／著



本を読む自由を守りたい。その思いに燃える主人公と周りで起こる様々な出来事。この本は読み始めると夢中になってしまう本です。一度は読んだことがある人も多いと思います。映画では演者の表情が映るため、より感情豊かな作品となっています。本を読む自由を守る主人公の戦いを楽しんでください。



【映画情報】2013年4月、2015年10月公開

〈出演〉岡田准一 榮倉奈々 ほか



『告白』 湊 かなえ／著

「私の娘はこのクラスの生徒に殺されました」担任教師の告白からこの物語は始まります。語り口が次々と変わっていくなかで次第に全体像が見えてきて、衝撃的なラストへと続いていきます。著者のデビュー作であるこの作品は2009年に本屋大賞を受賞したことでも有名ですね。湊かなえ作品をまだ読んだことが無い人にも、ぜひ手にとって読んで欲しい一冊です。



【映画情報】2010年6月公開

〈出演〉松たか子 岡田将生 ほか

『ビブリア古書堂の事件手帖』 三上 延／著

何事にも、隠れた物語があるものです。そう、古書とて例外ではありません。祖母の遺品の文庫本、せどり屋が愛する本など、独特の空気を纏うものが多くあります。そんな本の隠れた秘密を圧倒的な知識と洞察力を持つ古書堂店主・葉子さんが解き明かす一話完結の小説です。シリーズもので、7冊+その後を描いた1冊の計8巻が出版されています。映画の予習・復習に手に取ってみてはいかがでしょうか？



【映画情報】2018年11月公開

〈出演〉黒木華 野村周平 ほか



『夜は短し歩けよ乙女』 森見 登美彦／著

京都の町を舞台に、純な「黒髪の乙女」に密かに想いを寄せる「先輩」と、彼らを取り巻く愉快な人びとの恋愛ファンタジーです。コミカルな掛け合いと混在する非現実が楽しく、春夏秋冬で四章に分かれているので読みやすい本です。映画は不思議なストーリーと人目を惹くポップな絵柄がマッチした作品です。



【映画情報】2017年4月公開

〈声の出演〉星野源 花澤香菜 ほか



「酔う」ということは……

『夜は短し歩けよ乙女』の一章は夜の酒場が舞台です。そこで彼らは思いきり酒を飲んで酔っ払います。「酔う」というのは、肝臓で分解しきれず血液に含まれたアルコールが脳に到達し、そのため脳が麻痺するという状態のことです。ヒトは酒などで酔いますが、蜘蛛はコーヒーで酔っ払うのをご存じですか？ 蜘蛛はコーヒーのカフェインが脳に作用すると中枢神経が麻痺するようです。そして、その状態ではいつもの規則的な巣とは似ても似つかないデタラメな巣をつくるそうです。また、人間だけではなく、観光客のカクテルを盗み飲みするサルや発酵したリンゴを食べて酩酊状態になったヘラジカなど、酒好きはあちこちにいるようです。

【出典】 <https://animalbattles.wealthyblogs.com/?p=8120> 自然のチカラ～昆虫や野生動物、植物の不思議
<http://gaku-sha.com/animal/spider-coffee> 蜘蛛(クモ)はコーヒーを飲むと酔っ払う

